

8 日本に住む外国籍住民の人権について

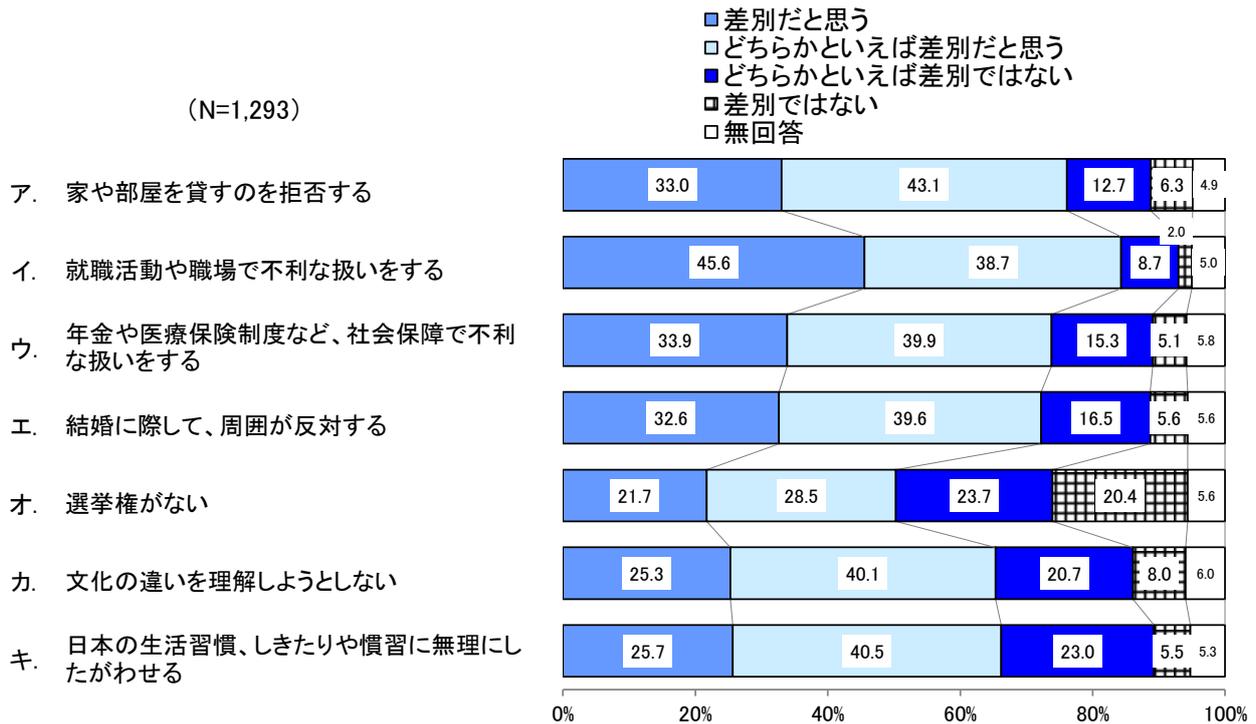
(1) 外国籍住民への差別だと思ふ行為

問 31 あなたは、次のような行為は外国籍住民への差別だと思ひますか。

(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

【図表 8-1 外国籍住民への差別だと思ふ行為】

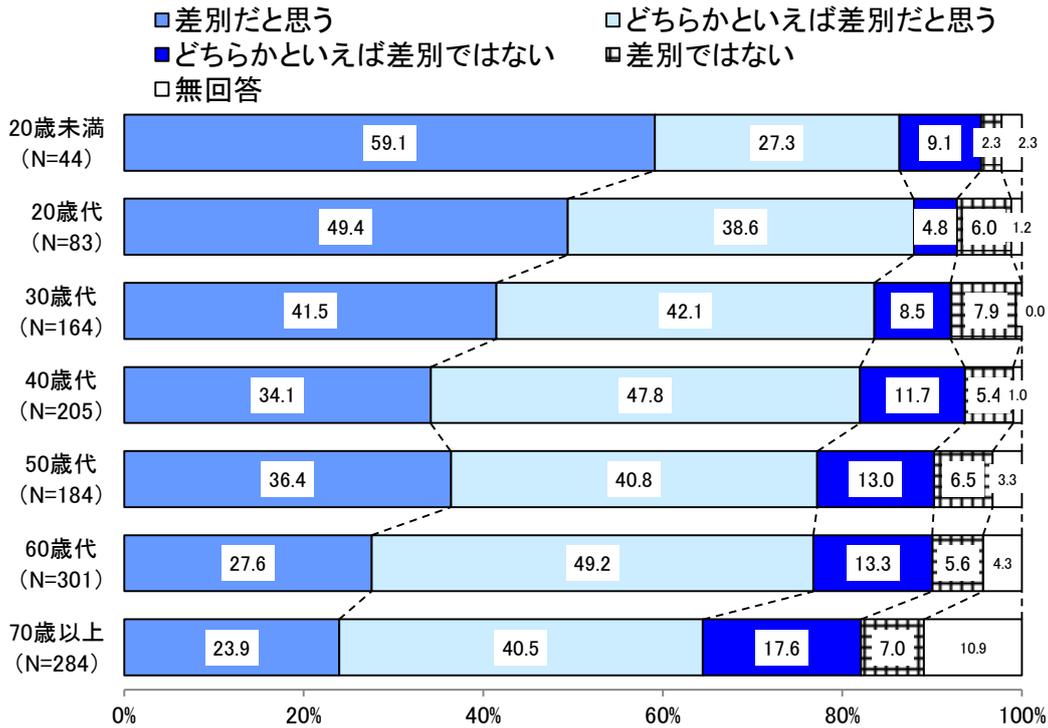
(N=1,293)



外国籍住民への差別だと思ふ行為については、いずれの項目でも“差別だと思ふ”（「差別だと思ふ」と「どちらかといえば差別だと思ふ」を合わせた数）が“差別ではない”（「どちらかといえば差別ではない」と「差別ではない」を合わせた数）を上回っている。

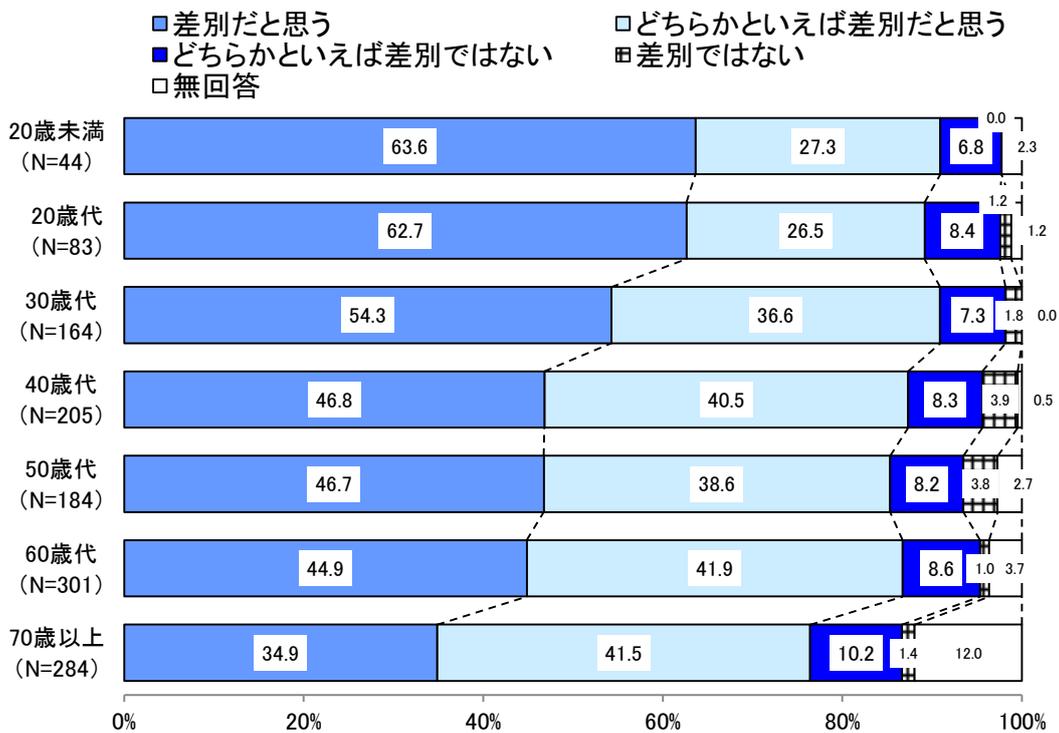
“差別だと思ふ”が高い項目は順に「イ. 就職活動や職場で不利な扱いをする」（84.3%）、「ア. 家や部屋を貸すのを拒否する」（76.1%）、「ウ. 年金や医療保険制度など、社会保障で不利な扱いをする」（73.8%）、「エ. 結婚に際して、周囲が反対する」（72.2%）、「キ. 日本の生活習慣、しきたりや慣習に無理にしたがわせる」（66.2%）、「カ. 文化の違いを理解しようとしなない」（65.4%）、「オ. 選挙権がない」（50.2%）となっている。（図表 8-1）

【図表 8-1-1 年齢別 ア. 家や部屋を貸すのを拒否する】



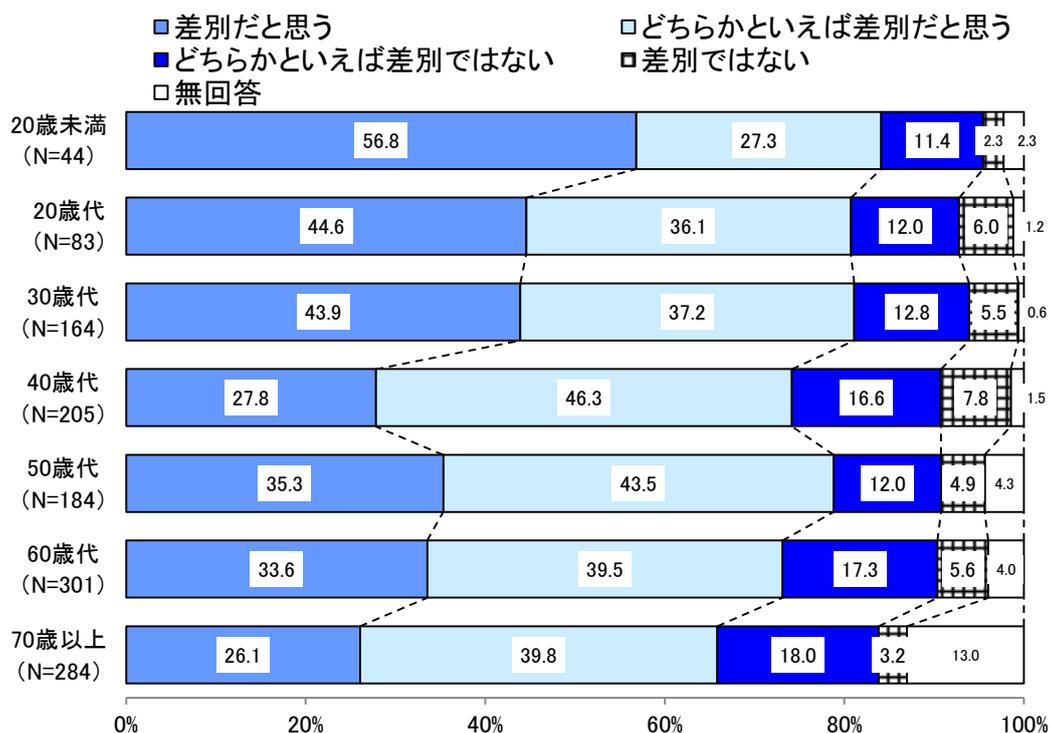
「ア. 家や部屋を貸すのを拒否する」を年齢別で見ると、おおむね年齢が上がるにつれて“差別だと思う”が低くなっている。(図表 8-1-1)

【図表 8-1-2 年齢別 イ. 就職活動や職場で不利な扱いをする】



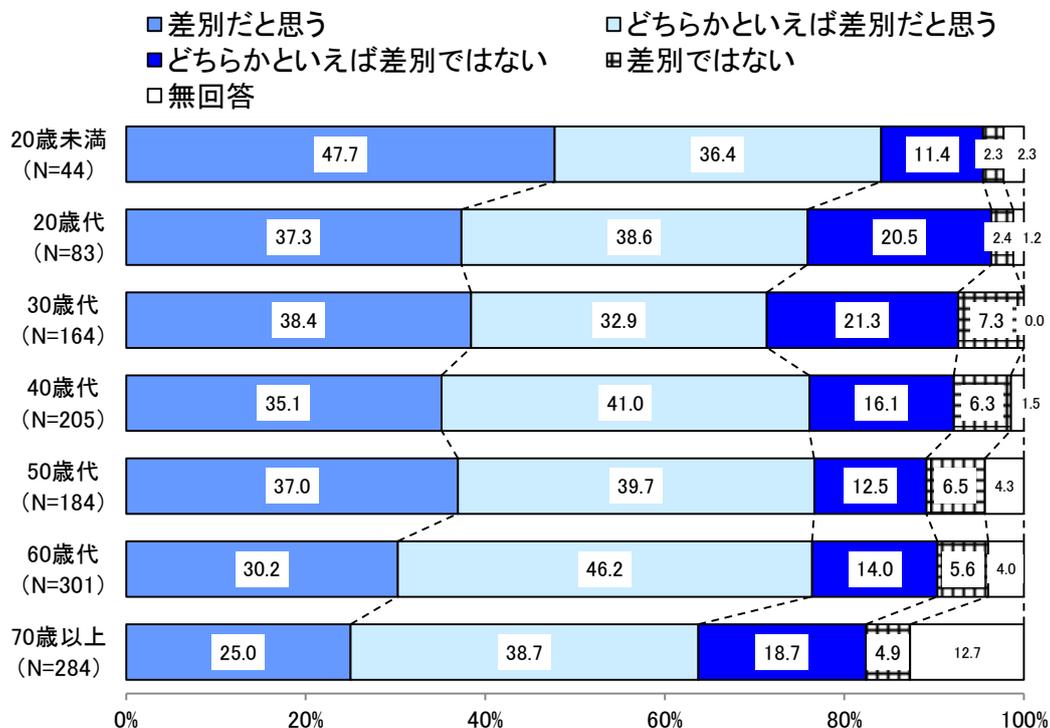
「イ. 就職活動や職場で不利な扱いをする」を年齢別で見ると、“差別だと思う”は60歳代以下では9割前後だが、70歳以上では8割を下回っている。(図表 8-1-2)

【図表 8-1-3 年齢別 ウ. 年金や医療保険制度など、社会保障で不利な扱いをする】



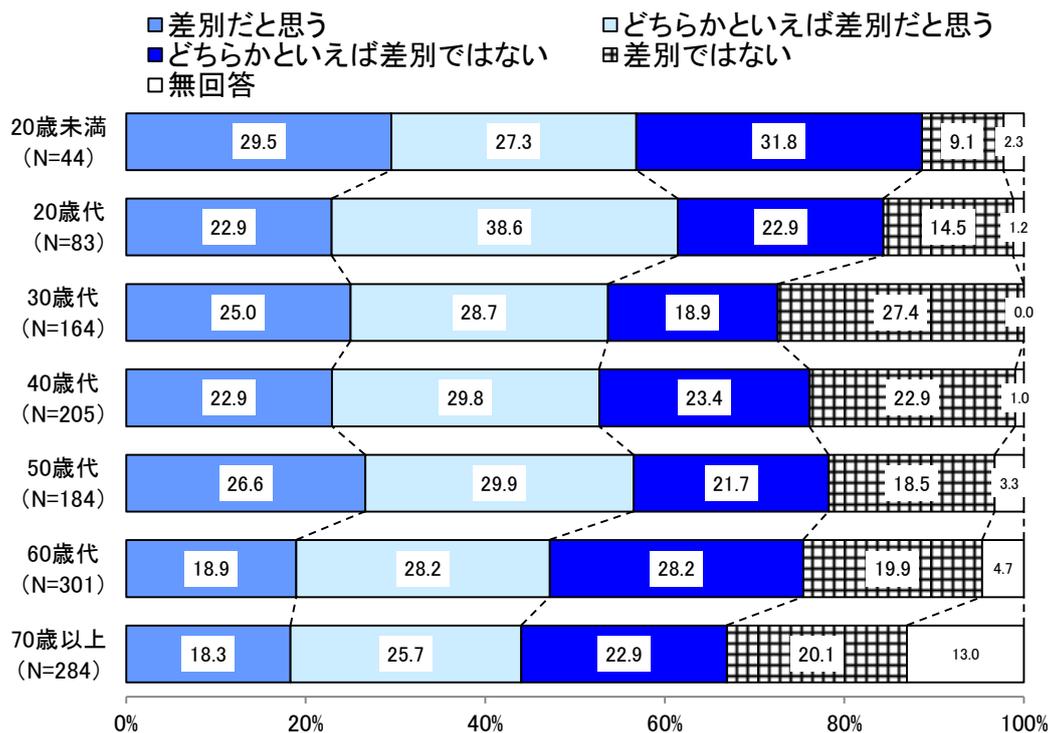
「ウ. 年金や医療保険制度など、社会保障で不利な扱いをする」を年齢別で見ると、「差別だと思う」は30歳代以下では8割台、40歳代～60歳代では7割台、70歳以上では6割台となっている。(図表 8-1-3)

【図表 8-1-4 年齢別 エ. 結婚に際して、周囲が反対する】



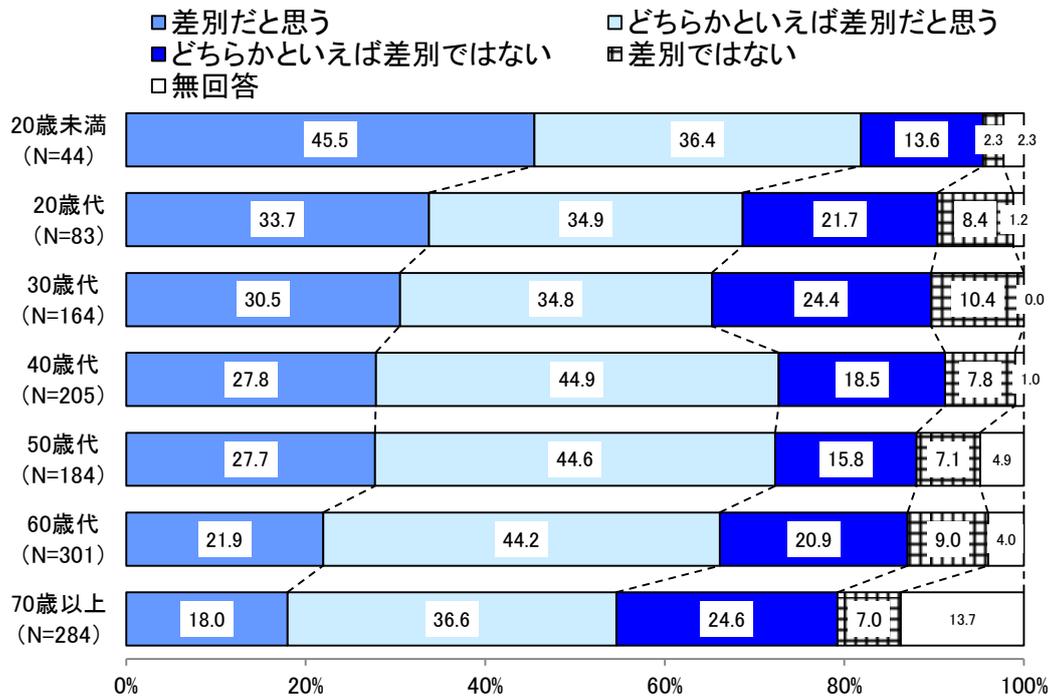
「エ. 結婚に際して、周囲が反対する」を年齢別で見ると、「差別だと思う」は20歳未満では8割台、20歳代～60歳代では7割台、70歳以上では6割台となっている。(図表 8-1-4)

【図表 8-1-5 年齢別 オ. 選挙権がない】



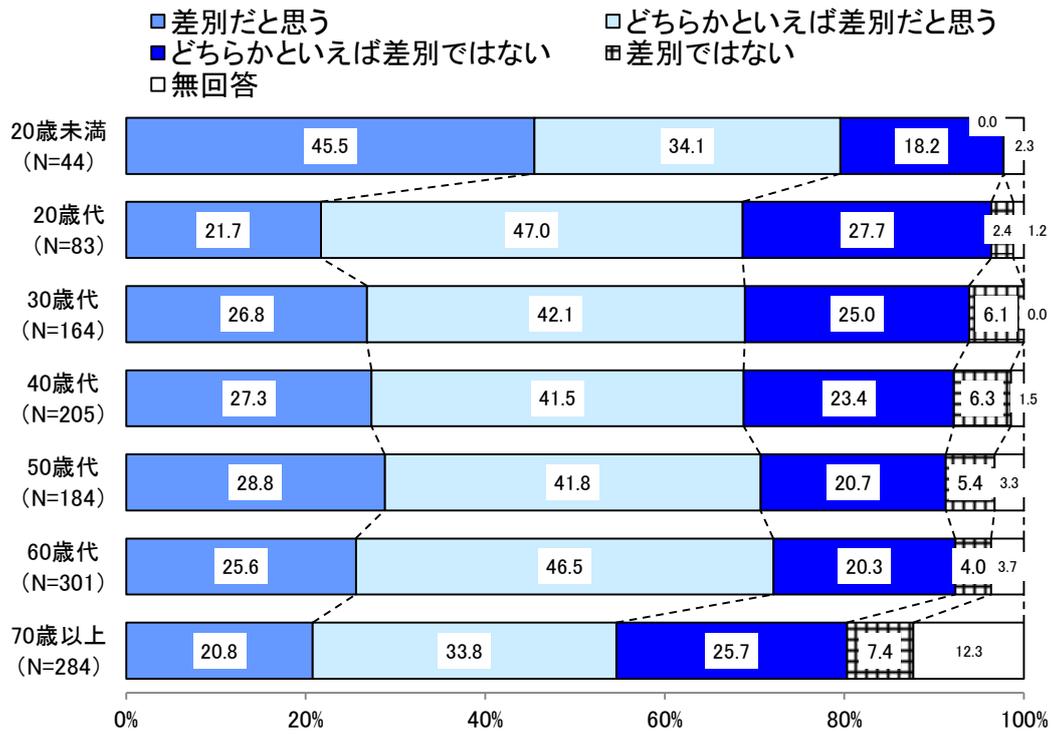
「オ. 選挙権がない」を年齢別で見ると、“差別だと思う”は20歳代では6割台、20歳未満と30歳代～50歳代では5割台、60歳代以上では4割台となっている。(図表 8-1-5)

【図表 8-1-6 年齢別 カ. 文化の違いを理解しようとしていない】



「カ. 文化の違いを理解しようとしていない」を年齢別で見ると、“差別だと思う”は20歳未満では8割台、40歳代と50歳代では7割台、20歳代、30歳代、60歳代では6割台、70歳以上では5割台となっている。(図表 8-1-6)

【図表 8-1-7 年齢別 キ. 日本の生活習慣、しきたりや慣習に無理にしたがわせる】



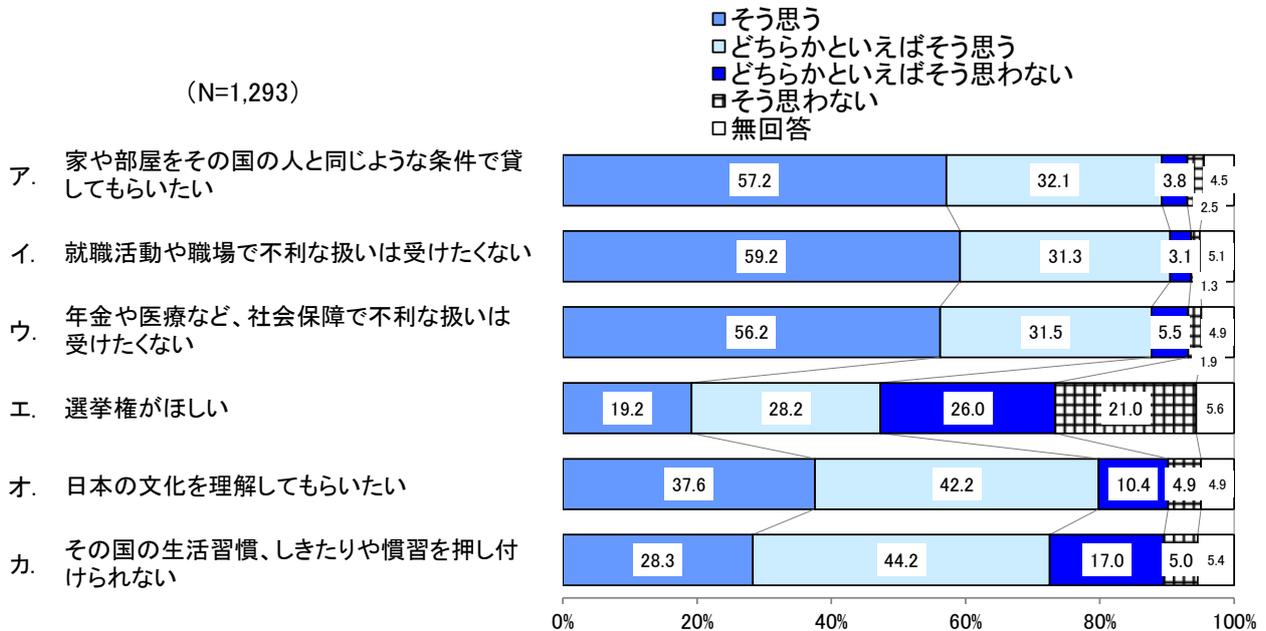
「キ. 日本生活習慣、しきたりや慣習に無理にしたがわせる」を年齢別でみると、「差別だと思う」は20歳未満では約8割、20歳代～60歳代では約7割、70歳以上では5割あまりとなっている。(図表 8-1-7)

(2) 外国で住むことになった場合、その国の人に希望する対応

問 32 あなたが外国で住むことになった場合、その国の人からどのように対応してもらいたいですか。(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

【図表 8-2 外国で住むことになった場合、その国の人に希望する対応】

(N=1,293)



外国で住むことになった場合、その国の人に希望する対応については、いずれの項目でも“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回っている。

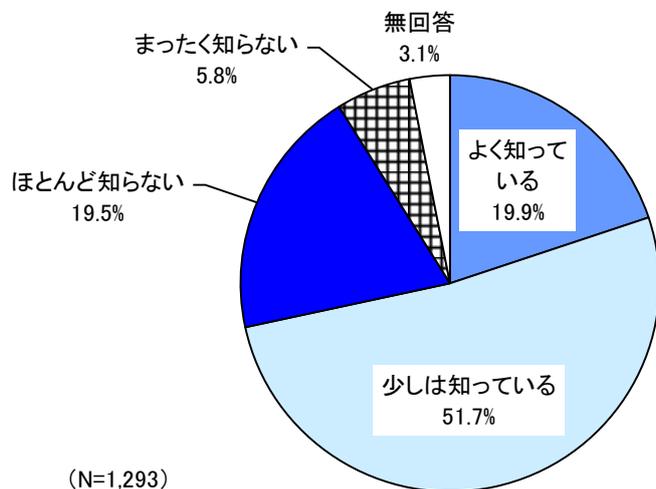
“そう思う”が高い項目は順に「イ. 就職活動や職場で不利な扱いは受けたくない」（90.5%）、「ア. 家や部屋をその国の人と同じような条件で貸してもらいたい」（89.3%）、「ウ. 年金や医療など、社会保障で不利な扱いは受けたくない」（87.7%）、「オ. 日本の文化を理解してもらいたい」（79.8%）、「カ. その国の生活習慣、しきたりや慣習を押し付けられない」（72.5%）、「エ. 選挙権がほしい」（47.4%）となっている。

問 32 は問 31（結婚に関する質問を除く）と対になっており、自分の立場が逆になった場合の質問をしている。選挙権に関する項目以外については、“そう思う”が問 31 の外国籍住民に対して“差別だと思う”を上回っている。またその差が大きい項目は順に「オ. 日本の文化を理解してもらいたい」（14.4 ポイント）、「ウ. 年金や医療など、社会保障で不利な扱いは受けたくない」（13.9 ポイント）、「ア. 家や部屋をその国の人と同じような条件で貸してもらいたい」（13.2 ポイント）、「カ. その国の生活習慣、しきたりや慣習を押し付けられない」（6.3 ポイント）、「イ. 就職活動や職場で不利な扱いは受けたくない」（6.2 ポイント）となっている。（図表 8-2）

(3) 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況

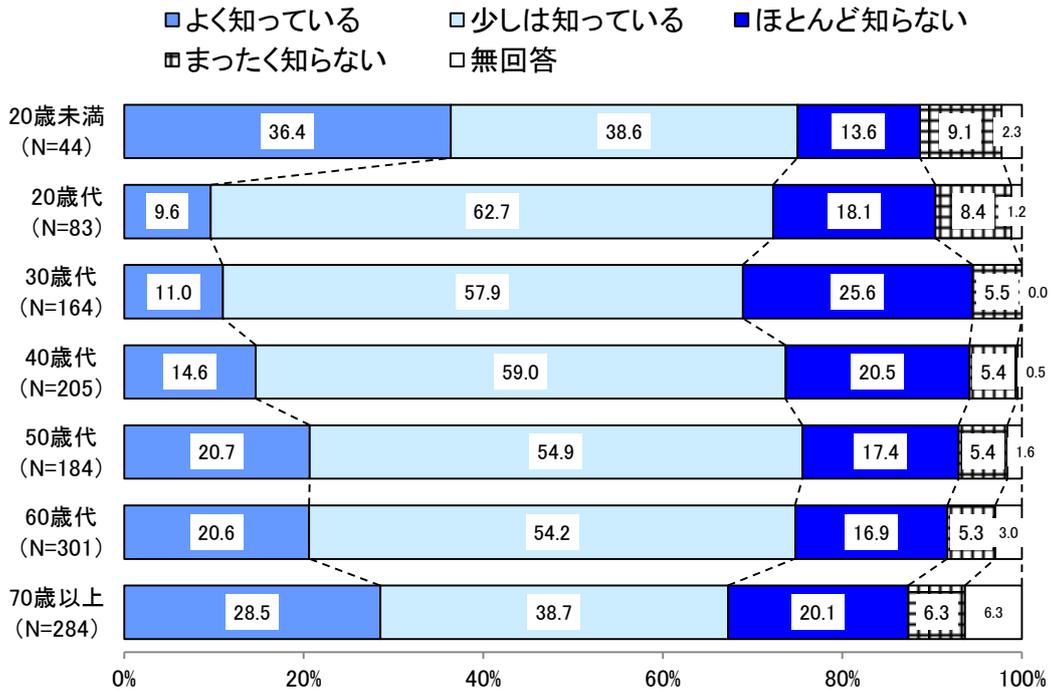
問 33 あなたは、戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことを知っていますか。(あてはまる番号1つに○)

【図表 8-3 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】



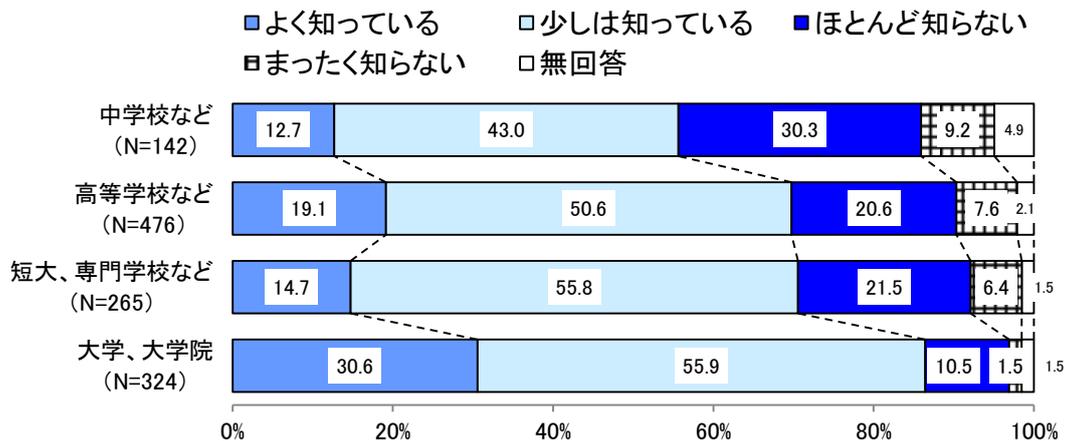
戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況については、「少しは知っている」が51.7%で最も高く、次いで「よく知っている」が19.9%、「ほとんど知らない」が19.5%、「まったく知らない」が5.8%で、“知っている”（「よく知っている」と「少しは知っている」を合わせた数）が71.6%、“知らない”（「ほとんど知らない」と「知らない」を合わせた数）が25.3%となっている。（図表 8-3）

【図表 8-3-1 年齢別 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】



戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況を年齢別で見ると、「よく知っている」は20歳未満が36.4%で最も高くなっている。20歳代以上では、年齢が上がるにつれて「よく知っている」が高くなっている。「知っている」は30歳代と70歳以上では6割台、それ以外の年齢では7割台となっている。(図表 8-3-1)

【図表 8-3-2 最終学歴別 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】

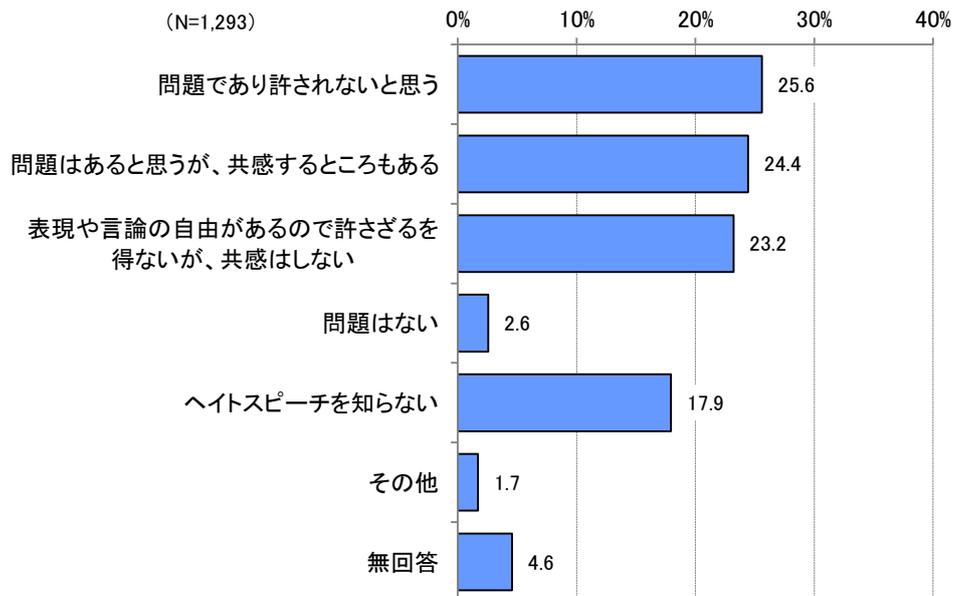


戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況を最終学歴別で見ると、高学歴になるにつれて「知っている」が高くなっている。(図表 8-3-2)

(4) ヘイトスピーチに対する考え方

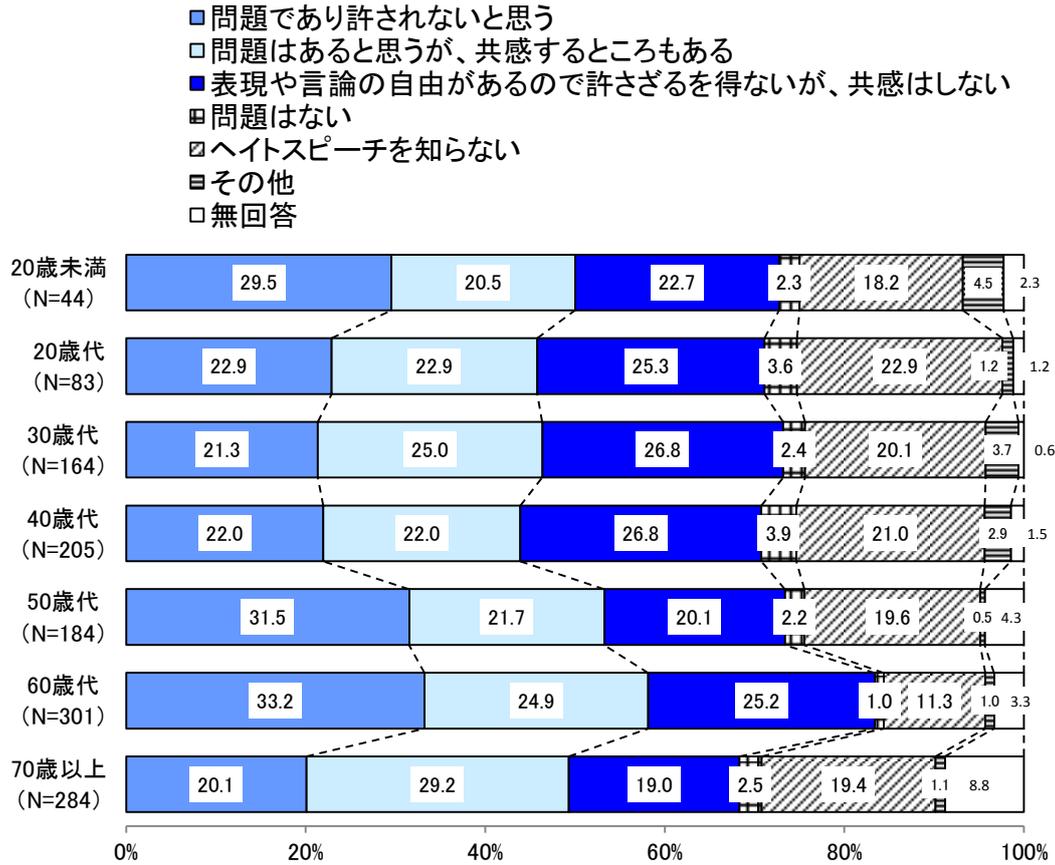
問 34 近年、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動が、いわゆるヘイトスピーチであるとして社会的関心を集めています。在日韓国・朝鮮人へのいわゆるヘイトスピーチについて、あなたはどのように思いますか。(あてはまる番号1つに○)

【図表 8-4 ヘイトスピーチに対する考え方】



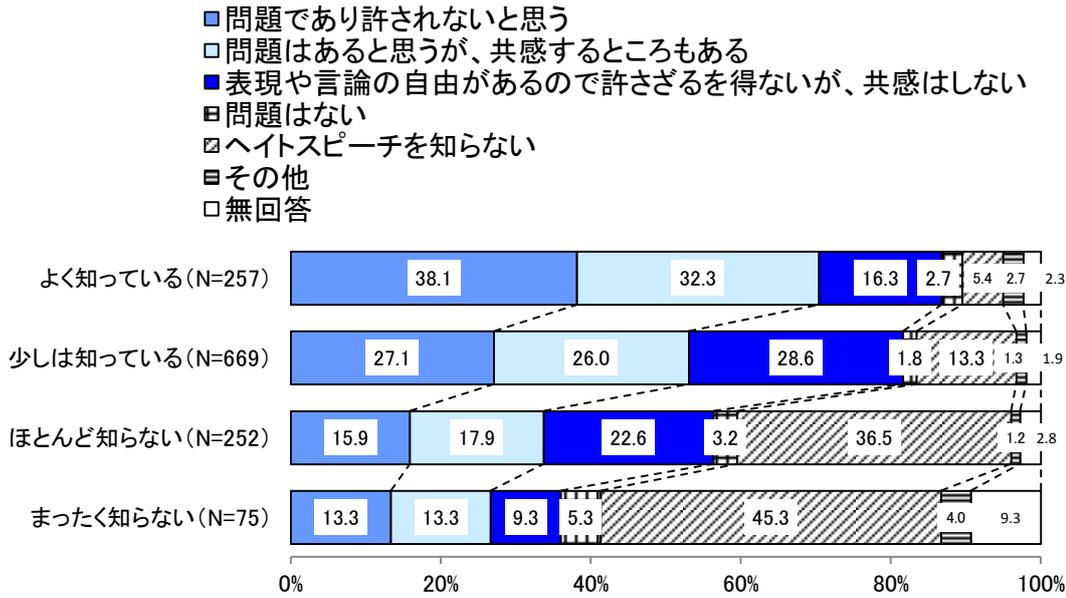
ヘイトスピーチに対する考え方については、「問題であり許されないと思う」が 25.6%、「問題はあると思うが、共感するところもある」が 24.4%、「表現や言論の自由があるので許さざるを得ないが、共感はしない」が 23.2%、「問題はない」が 2.6%、「ヘイトスピーチを知らない」が 17.9%となっている。(図表 8-4)

【図表 8-4-1 年齢別 ヘイトスピーチに対する考え方】



ヘイトスピーチに対する考え方を年齢別で見ると、「問題であり許されないと思う」が最も高い割合を占めている年齢は20歳未満(29.5%)、50歳代(31.5%)、60歳代(33.2%)、「問題はあると思うが、共感するところもある」が最も高い割合を占めている年齢は70歳以上(29.2%)、「表現や言論の自由があるので許さざるを得ないが、共感はしない」が最も高い割合を占めている年齢は20歳代(25.3%)、30歳代(26.8%)、40歳代(26.8%)となっている。(図表 8-4-1)

【図表 8-4-2 問 33 別 ヘイトスピーチに対する考え方】



ヘイトスピーチに対する考え方を問 33 の「戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたこと」の認知状況別でみると、認知度が低くなるにつれて「問題であり許されないと」が低くなり、「問題はない」がおおむね高くなっている。(図表 8-4-2)